

○藤井 博英

○学位 修士(人間科学)

○教育研究業績

事項		年月	概要
教育上の能力に関する事項	教育方法の実践例	日本赤十字秋田看護大学での教育実践例	
		精神看護学概論	H23.10～ H29.3 “心の健康とは何か？”という基本テーマを中心とした身近な出来事を取り上げながら授業を進め、精神保健の基本概念について理解を図っている。
		精神リハビリテーション	H23.4～ H29.3 精神障がい者の社会復帰に向けての法律と現状及び看護支援のあり方について教授する。
		認知症看護論	H23.4～ H29.3 認知症患者とその家族の支援に関する最新の知識と技術について教授する。さらに、認知症患者の生命、生活の質、尊厳を尊重したケアについても理解を深める。
		看護研究方法論	H23.4～ H29.3 看護研究を行うために必要な基礎能力を培う。特に研究とは何か、研究における倫理的配慮について教授する。
		精神看護学実習	H23.4～ H29.3 対象(精神のバランスをくずしている人や精神をやんでいる人)を総合的に理解し、精神の健康回復と問題解決に対しての援助活動を理解するよう教授している。
		日本赤十字秋田看護大学大学院での教育実践例	
		看護研究法	H23.4～ H29.3 修士論文作成に必要な看護研究法について研究テーマの絞り込み、質的データの集め方(インタビュー法と参加観察法)、質的分析(コーディング)とスーパービジョン、論文のまとめ方について理解するよう教授している。
		成人老年看護学特論	H23.4～ H29.3 自殺の実態、自殺と病気の関係、自殺予防とメンタルヘルス、自死遺族のケアについて理解を深め、看護学的な介入を考究するよう教授している。
		成人老年看護学演習	H23.4～ H29.3 慢性疾患、障害をもつ対象及び家族の病への取り組みのアセスメント能力を高め、患者家族を支援するための専門的看護援助の方法を習得するよう教授している。
特別研究	H23.4～ H29.3 ①平成24年3月(テーマ:精神科看護師が認識する退院前訪問指導の効果の実態)②平成25年3月(テーマ:死産を経験した夫と妻の喪失体験に対する認識についての実態)③平成26年10月(テーマ:重度認知症高齢者を抱える家族介護者の長期介護に関する“価値”や“生きがい”を見出すプロセス)(テーマ:初回経皮的冠動脈形成術を施行した虚血性心疾患患者へ循環器教室がもたらす、退院後のセルフエフィカシーを促進する要因分析)		

事項			年月	概要
実務の経験を有する者についての特記事項		秋田大学医学部附属病院研究委員会主催、看護研究の基礎と講評	H16.8～現在	次の内容の講義を行った。1. 研究計画書を書く意義、2. 研究計画書作成のプロセス3. ( i. 研究テーマをどう設定し、どう絞り込むか、 ii. 研究動機と研究目的を明確にする、 iii. 研究の背景を知るための文献検索の方法、 iv. 倫理的な配慮が必要なケースを考える、 v. 研究方法)、4. 研究計画書をどのように活用するか、5. 研究計画書の実例、以上5つの視点で検討した。講評は、1. 研究目的と研究デザイン、結果、考察に一貫性があるか2. データは結論に裏付けているか、3. 論理的な思考に基づいて分かりやすく発表されたか4. 研究の意義は妥当か、以上4つの視点で行った。全体的に、①看護研究の必要性、②研究の動機、③研究目的、④文献検索、⑤研究デザイン、⑥データ収集、⑦データ分析、⑧倫理的配慮 等についての基礎的知識が深まり、全国学会等の発表ができるようになってきている。また、研究から得られた知見を患者に還元し、できるだけ質の高いケアを図ろうとしている。
		岩手県医療局主催研修会 岩手県医療局主催 看護研究基礎研修会	平成13年8月～現在	看護研究指導者予定者を対象に「看護研究計画書作成に関する講演(①、②)を行った。その内容は、1.なぜ看護研究が必要か2.「研究」の語源3.看護研究と看護過程の共通点4.研究の動機5.研究目的6.文献検索7.研究デザイン8.データ収集9.データ分析10.倫理的配慮について以上10点を中心に教授を行った。
		日本総合研究所研修会		
		日総研主催		
職務上の実績に関する事項	資格、免許	日本応用心理学会認定「応用心理士」		
		看護師免許		

○著書・研究論文

著書、学術論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
学会抄録	小規模事業場におけるメンタルヘルス対策を促進・阻害する要因	共著	H27.12	日本看護科学学会学術集会講演集35回、p692(広島)	目的は、小規模事業場におけるメンタルヘルス対策の現状を調査し、メンタルヘルス対策を促進・阻害する要因を明らかにすることである。研究対象として、A県下の常用雇用者数49人以下の小規模事業者。データ収集の方法は、インタビュー調査を行った。分析方法は、インタビューデータから、内容分析(Krippendorff,1980)の手法に基づいた。メンタルヘルス対策を阻害する要因となる【セルフケアに対する過信】【事業主が感じている確信に迫れない遠慮感】【事業主のストレス】【事業主及び従業員が抱く人間関係の心のバリア】【対策の遅れを助長する県民性】、メンタルヘルス対策を阻害もしくは促進する要因となる【事業主が抱く従業員に対する暗黙の重圧】【小規模事業場の現実】、メンタルヘルス対策を促進する要因となる【職場環境に関する配慮】【事業主として身につけている対策】【事業主の経験から生まれる認識】【病気に対する理解】の11の категорияが形成された。原田郁、大山一志、谷地和加子、藤井博英
	死産を経験した夫と妻の喪失体験に対する認識についての実施	共著	H27.12	日本看護科学学会学術集会講演集35回、p587(広島)	死産を経験した夫と妻の喪失体験に対する認識についての実態を明らかにすることを目的とした。対象は、妊娠12週以降の自然流産を及び医師から妊娠継続が不可能と診断され、人工死産を余儀なくされた夫婦3組の半構造化面接を実施した。得られたテキストデータをIBM社のSPSS TEXT Analytics For Survey4(以下SPSS)によるテキストマイニング分析を行った。その結果、夫婦ともに亡くなった子への思いはあるが、夫や妻や家庭生活を気にする一方で、妻は自分の気持ちに関心が向かう傾向がある。そのような夫婦間での喪失体験における認識の差異を踏まえた支援方法の検討が示唆された。また、死産と言う体験は夫婦にとってネガティブな体験であっただけでなく、子を失うことで得られたものもあったポジティブな体験であったと捉えていた。横濱幸恵、藤井博英
	自治体における自死遺族会の遺族スタッフの実態	共著	H27.12	日本看護科学学会学術集会講演集35回、p581(広島)	自治体における自死遺族会の遺族スタッフの実態を明らかにすることを目的とした調査を行った。全国の都道府県及び政令指定都市(以下、自治体とする)で自殺対策総合窓口となっている部署(67箇所)に無期記名自記式質問紙票による郵送調査を行った。回収は41部(回収率61.1%)で有効回答40部(59.7%)を分析対象とした。「自死遺族会」がある自治体37件(95.5%)で、「自死遺族会」の主催は自治体25件(67.6%)、自死遺族13件(35.1%)であった。遺族スタッフの有無では、遺族スタッフがいる18件(48.6%)、いない14件(37.8%)、手伝ってくれる遺族2件(5.4%)、把握していない3件(8.1%)であった。柏葉英美、藤井博英

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>退院前訪問指導のアウトカム評価における精神科経験年数との関連性</p>	<p>共著</p>	<p>H27.12</p>	<p>日本看護科学学会学術集会講演集35回、p356(広島)</p>	<p>精神科看護師が認識する退院前訪問指導の効果として、【日常生活能力の把握】【不安の軽減】【地域との協働】【家族支援】【危機管理能力の査定】【社会生活技能の把握】【地域生活の準備】の7因子を抽出した。抽出したこれら7因子と、精神科退院前訪問指導に携わる看護師の属性および訪問指導の実施状況との関連について明らかにした。対象は、全国の病床数100床以上の精神病院に勤務する病棟看護師で、精神科退院前訪問指導を実施したことがある372名を対象とした。データ収集は郵送調査とし、分析方法は、看護師の属性および訪問指導を実施状況について多重解析および検定を行った。抽出した7因子について看護師の属性と比較した結果、地域生活の準備の因子において看護師の勤務年数別で有意な差が認められた。道上勝春、藤井博英、佐藤美佳、谷地和加子、大山一志、柏葉英美</p>